

十島村教育委員会だより 令和6年7月号

さわやかトカラ情報

南北160km

「心をつなぎ 気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会
〒892-0822鹿児島市泉町13番13号
TEL 099-227-9771

【1学期の終了と夏休みのスタート!事故やけがないように!!】

十島村教育委員会教育長 木戸 浩

新しい義務教育学校がスタートし、1学期が終わろうとしています。前期課程の1年生から後期課程9年生までの1つの学校として、様々な取組を行い、子どもたちは日々成長していることと思います。まだ成果として表立ったところは出てきていないかもしれませんが、小中学校の免許を持った教職員が乗り入れ授業を今まで以上に実施し、子どもたちの「分かった」「できた」の場面を多くしています。保護者の方々は授業参観等でその様子をご覧になり、少しずつ実感されているのではないのでしょうか。先生方にとっても、中学校籍（後期課程）の教職員が増えたことで、受け持つ教科が減り、教材研究等の時間や、受け持つ校務分掌（係の仕事等）が減り、働き方改革にもつながっていると思います。そうすることで、子どもたちとふれあえる時間や、個別指導にかける時間も確保され、学力向上にもおおいに貢献しているところだと思えます。

夏休みは、水難事故が一番懸念されます。海に出かける機会も多くなるとは思いますが、ライフジャケット等を必ず付けて、安全の確保をお願いします。併せて島外に出た時の交通事故等にも配慮をお願いします。

【カーネーション寄贈の田知行義久様が十島村を訪問されます。】

母の日に43年間もの長きに渡って、「カーネーション」を子どもたちのために寄贈してくださっている旧吉田町在住の「田知行義久」様が、長年希望されていた“十島村の全ての島に行ってみよう”という願いが実現することになりました。7月26日（金）から29日（月）に実施される「七島巡りツアー」に当選されました。ツアーは奄美大島で解散ですが、田知行様は、復路もフェリーとしま2で、鹿児島まで帰られます。これまで、カーネーションを受け取られた方も多いと思えますので、ぜひ港で田知行様にお礼の言葉をかけていただくと幸いです。

【先人の教育論・教師論に学ぶ】

○ 『教育論』 ～柳沢政太郎（やなぎさわ まさたろう）～

1865-1972年、近代日本の文部官僚、教育者です。長野県松本市生まれで、大正自由主義教育運動の中で中心的な役割を果たしました。大正6年、科学的進歩主義の実験学校として成城小学校（成城学園・大学の起源）を設立。当校は、後にドルトンプランを採用して、その教育方法の中核となりました。ドルトンプランとは伝統的な一斉授業や受動的学習を排し、児童生徒が自己の能力に応じた学習内容を自力で学習するというところに主眼を置いた教育方法でした。このような児童中心の新教育は、私立学校から始まり、やがて、官公立学校にも波及していきました。これも今の時代、今の自分に照らして読んでみてください。この頃から今求められている「学習者主体の授業」を追い求めていたことが分かります。

生きた人間を直接に相手にする仕事には、心身ともに健やかで正常な常識をもつということが何よりも大切である。教師の仕事は生き生きと成長する人間を直接相手にするものである。だから、常識を欠いては、とてもその務めを尽くすことはできない。

教育に関する世間の非難は、多くの場合、教師にこの常識が乏しいところから起きている。例えば、規則（原則・原理、…個人の理念など）にこだわり、融通が利かないという非難、形式（個の尊厳が埋没するような全体主義）にばかりとられるという非難、実際に役に立たないことを行っているという非難などは、知識や道徳心の欠如から生まれてくるのではなく、多くの場合、常識（ここで言う常識は、ある社会に属する人間にのみ限定されるものではなく、あらゆる社会に属する人間に共通している人類的な常識を指す）が欠けているところから起こるのである。

【新聞に投稿 学校・学年は投稿時のもの】
令和6年5月14日 南日本新聞「若い目」

大みよう竹の子とったぞー
土ようじゆぎようの日、がくえんの二十一人と先生とお父さんたちとみんな、ちかくの竹山に出かけました。ササにかくれて、大みよう竹の子がどこにあるか、よくわかりませんでした。さいしよは、たんじんのまゆみ先生が「そこに、あるよ」とおしえてくれました。だんだん、なれてきました。ササのあいだから、ニョッキと十秒ぐらい出ているのが、おもしろいです。二十本とれました。とった竹の子は、学校にもつてかえりました。じぶんたちのぶんときゅうしよくで使うのにわけました。じぶんたちのぶんは、お父さんたちがすみ火でやいてくれました。あついで、あついでいいながら、かわくホクでとったぞーおもしろいです。

諏訪之瀬島学園二年 はせ川ヒカリ

令和6年6月14日 南日本新聞「子供のうた」

わたしはねこ
わたしはねこ
かわいいねこ
かわいいねこ
せかいでいちばん
かわいいねこ
みんな
わたしを
かっぺしてみたい
かっぺしてくれたら
おんがえしするわ
ロ之島学園一年 まつもと ゆの



令和6年5月9日 南日本新聞「子供のうた」

やぎ
やぎをつかまえました
しろくろいろです
みじかいのがあります
こゆびぐらいます
おおきさはおおきなねこぐらいます
すこし ざらざらしています
おうちのちかくで かっぺします
くさをあげると
おいしそくにたべてくれます
諏訪之瀬島学園一年 もり えりな



十島村で学ぶ

【交流学习で学んだこと】
諏訪之瀬島学園 9年 森 恒太郎

5月27日（月）～29日（水）の日程で十島村の7つの学園の後期課程生50人参加して交流学习が行われました。日置市のゆすいんに宿泊をして、伊集院中学校、伊集院北中学校との交流をはじめ、鹿児島城西高校、鹿児島実業高校、鹿児島情報高校、鹿児島高校を見学をしました。台風の影響で延泊することになりましたが、無事、帰島しました。

今回の交流学习で学んだことが2つあります。1つ目は、集団生活です。起床から就寝するまでの1日の流れの中で他の人と一緒に生活するうえで「時間」を守ることや「マナー」を守ることに心がけました。起床時間や集合時間に遅れたり、マナーが守れなかったりすると周りの人に迷惑をかけてしまうことがあるからです。僕は朝早く起きるのは得意ではないですが、他の人と同じように過ごせるように気を付けていました。

2つ目は、高校見学です。高校見学に行くまでは、あまり高校について知りませんでした。見学に行ったことで、それぞれの高校の学科（普通科系、商業系、工業系、情報系）の特色を知ることができました。今後の進路を考えるうえで参考にしていきたいと思えます。

今回の交流学习で中学校・高校での交流ができたことは、貴重な体験であり今後の自分の進路を実現していく上で重要な機会だったと思えます。

【悪石島学園からのメッセージ】

教諭 那須 孝之

令和5年3月。当時、福岡で6年担任をしていた私が、翌日の卒業式の準備を終えて帰宅すると、鹿児島県教育委員会より赴任先決定の知らせが届いていました。家族で「どこになるかな」とワクワクしながら開いてみると、「悪石島小中学校」と書かれていました。そのとき、とてつもない驚きと不安を感じたのを今でも覚えています。

しかし、悪石島に赴任してすぐに、その不安はなくなりました。島の方の温かさや先輩の先生方の優しさ、そして、島の子供たちのたくましさ。今では、人との関わりを大切にこの島のつながりを、幸せに感じています。また、小さい学校だからこそ子供、先生それぞれに役割があり、輝くことのできる活動や行事、仕事が充実しています。例えば、運動会や学習発表会などの行事では、大人や子供関係なく参加し、たくさんの真剣な眼差しと笑顔を見ることができず。地域の方々に支えられ、地域とともに成長していく学校を、日々感じる事ができています。

「十島村への赴任は不便はあるが、不幸ではない。」これは、赴任する際に木戸教育長からいただいた言葉です。その言葉のとおり、悪石島での生活は私にとって人生を豊かにしてくれるものとなっています。これからも悪石島の方々と関わりを大切にし、自分にできることを考え、子供たちや島民の方に返していけるよう、教員として一生懸命努めたいと思えます。

『教職員仲間であるあなた』への 私からのメッセージ

十島村での教員経験は、今後の教員生活を豊かにしてくれる素敵なもの。村教研大会でみなさんにお会いできるのを楽しみにしています。